

7 . 医学系研究科

医学系研究科の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	7 - 2
「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・	7 - 4
分析項目 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	7 - 4
分析項目 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	7 - 12
「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・	7 - 17

医学系研究科の教育目的と特徴

本研究科は、地域の医療機関の先導的機関の役割を担いながら、国内外の医療機関及び教育機関や研究機関との交流や相互理解を深め、倫理観のある先端医療の研究を行う。

〔医学系研究科医科学専攻〕

先端医学・医療の学識や技術をもち、先進的・学際的・創造的な探求心と倫理観を兼ね備えた研究者及び高度専門職業人を育成する。

〔医学系研究科再生医科学専攻〕

博士前期課程は、先端的再生医科学の知識や技術に基づき生命科学、再生工学の専門性を身に付けた高度専門職業人の育成を教育上の目的とする。また、博士後期課程は、高度な再生医科学の知識・技術のみならず生命倫理にも精通した研究者及び再生臨床医の育成を教育上の目的とする。

〔医学系研究科看護学専攻〕

看護における研究課題の探求資質をもち、倫理観や科学的思考力に裏打ちされた高度な看護を実践できる人材の育成を教育上の目的とする。

（特徴）

〔医学系研究科医科学専攻〕

入学者は、医（歯）学部卒業者並びに修士課程修了者及びそれと同等の学力を有する者である。学生中心の教育体制を確立するとともに専攻のボーダーレス化を図ることにより、高度の独創性と国際性を併せ持った医科学研究者並びに専門職業人を育成することを目指している。

5大講座を設置しており、平成20年度には独立行政法人自動車事故対策機構及び社会医療法人厚生会との間で教育研究に係る連携・協力に関する協定を締結して神経統御学講座に「連携分野 脳病態解析学」を設置している。

平成20年度から「がんプロフェッショナル養成プラン」（東海がんプロ）に参画し、「横断的な化学療法の専門医養成コース」として、腫瘍制御学講座臨床腫瘍学分野において、実践的な教育を実施している。平成24年度からは「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」として第2期目がスタートしている。

〔医学系研究科再生医科学専攻〕

理学部、工学部等の学部卒業者が入学する博士前期課程と、修士課程修了者及び同等の学力を有する者が入学する博士後期課程がある。理工系学部等の出身者に分子生物学、医用生命・情報工学、臨床医学および社会医学の各分野で再生医科学を中心的に担うことのできる知的創造性・専門性と共に倫理性・人間性・社会性の豊かな人材を育成することを目指している。

平成23年度に「循環病態学」及び「呼吸病態学」の2分野を再生医科学専攻（博士後期）から医科学専攻に移設し、再生医科学専攻（博士後期）に「循環呼吸制御学」を設置した。

〔医学系研究科看護学専攻〕

入学者は、看護系学部卒業者及びそれと同等の学力を有し、かつ、生涯を通じ専門職業人として看護学への追究心や創造性、応用性に強い意欲を持つ者である。教育課程は、臨地実践能力をもつ看護職、基礎的研究能力をもつ看護職、看護教育能力をもつ看護職を育成することを目指して編成されている。

授業科目は共通科目と専門科目で構成され、共通科目では医科学専攻が開講している科目も選択可能である。専門科目においても選択履修可能な科目を設定し、主体的に看護活動の実践・教育・研究に必要な基礎的能力を修得できるようにしている。また、現職の看護系職員が、働きながら看護学を探求できるように、長期履修対応や昼夜開講制などのカリキュラム編成を行っている。

[想定する関係者とその期待]

想定する関係者として、まず、基礎となる医（歯）学部・生命工学及び画像工学系工学部及び看護系学部の卒業者が想定される。これら学部卒業者は、学部教育では得られない専門的かつ最新の研究課題に対し、世界に通じる卓越した医学研究、先進的な診療や看護研究等を通して指導を受けることができる。したがって大学院への進路選択希望者からは、地域社会や医療機関において探究心旺盛で卓越した専門知識を備えたリーダー養成機関として期待されている。

次に、就職先となる医療系の高等教育機関や医療機関、並びに関連する企業が想定される。これらの機関からは、高度で先端的・学際的研究を推進し、将来の医学や看護を担うリーダーとなる優れた研究者、臨床医、看護職並びに現代医療に対応できる医療行政の専門家を養成することを期待されている。

最後に、教育及び研究の成果の享受対象となる地域社会及び共同研究機関が想定される。医療や看護の提供を受ける地域社会及び医学の研究機関で、リサーチマインドの高い研究成果の創出及び科学的根拠に基づいた医療や看護等を実践できる人材養成が期待されている。

「教育の水準」の分析・判定

分析項目 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

本研究科は、表1-1-1に示すとおり、医科学専攻、再生医科学専攻及び看護学専攻の3専攻から構成され、それぞれの専攻の教育研究の目的が定められている。

表1-1-1 医学系研究科の構成

課程	専攻等名	専修・講座数等	教育研究の目的
博士課程	医科学専攻	5	医科学専攻にあつては、高度で先進的・学際的・創造的な探求心を持続し、人間性豊かな教育者及び研究者並びに先端医療の知識・技術のみならず研究遂行上不可欠な倫理観をもつ臨床医を育成することを教育上の目的とします。
博士前期課程	再生医科学専攻	3	再生医科学専攻(博士前期課程)にあつては、先端的再生医科学の知識・技術に基づき生命科学、再生工学、生命倫理の専門性を身に付けた高度に専門的な職業人を育成することを教育上の目的とします。
博士後期課程	再生医科学専攻	3	再生医科学専攻(博士後期課程)にあつては、高度な再生医科学の知識・技術のみならず生命倫理にも精通した研究者及び再生臨床医を育成することを教育上の目的とします。
修士課程	看護学専攻	2領域 4分野	看護学専攻にあつては、看護における研究課題の探求資質をもち、倫理観や科学的思考力に裏打ちされた高度な看護を實踐できる資質をもった人材を育成することを教育上の目的とします。

(出典：医学系研究科ホームページ)

(1) 教育組織、教員組織及び入学者選抜の状況

各専攻の入学者選抜状況は、表1-1-2及び表1-1-3に示すとおりである。

表 1 - 1 - 2 入学者選抜の実施状況

課程	専攻	年度	入学定員	募集単位	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
								募集別	合計
博士前期	再生医科学	H22	11	推薦	6	6	5	5	16
				1次	10	10	10	9	
				2次	2	2	2	2	
		H23	11	推薦	4	4	4	4	10
				1次	7	6	6	5	
				2次	2	2	1	1	
		H24	11	推薦	7	7	7	7	9
				1次	2	2	2	2	
		H25	11	推薦	4	4	4	4	10
				1次	6	6	5	5	
				2次	1	1	1	1	
		H26	11	推薦	6	6	6	6	14
				1次	8	8	8	8	
		H27	11	推薦	6	6	6	6	10
1次	4			4	4	4			

岐阜大学医学系研究科 分析項目

課程	専攻	年度	入学定員	募集単位	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
博士 後期	再生医 科学	H22	6	1次	1	1	1	1
				2次	8	8	8	8
				3次	1	1	1	1
		H23	6	1次	1	1	1	1
				2次	1	1	1	1
		H24	6	1次	2	2	1	1
				2次	2	2	1	1
				3次	1	1	1	1
		H25	6	1次	0	0	0	0
				2次	0	0	0	0
				3次	0	0	0	0
		H26	6	1次	1	1	1	1
				2次	1	1	1	1
				3次	1	1	1	1
		H27	6	1次	1	1	1	0
				2次	3	3	3	3
				3次	0	0	0	0
		博士	医科学	H22	47	1次	14	13
2次	16					15	13	13
3次	5					5	5	5
H23	47			1次	11	11	10	10
				2次	25	25	24	24
				3次	4	4	3	3
H24	47			1次	18	18	18	17
				2次	9	9	8	8
				3次	2	2	2	2
H25	47			1次	17	17	16	15
				2次	16	16	14	14
				3次	5	4	3	3
				4次	2	2	2	2
H26	47			1次	16	16	15	14
				2次	13	13	12	12
				3次	6	6	5	5
				4次	2	2	2	2
H27	47			1次	6	6	6	6
		2次	15	15	15	15		
		3次	12	12	11	11		
修士	看護学	H22	8	1次	10	10	8	7
		H23	8	1次	8	8	7	7
		H24	8	1次	7	7	5	5
				2次	2	2	1	1
		H25	8	1次	6	6	3	3
				2次	2	2	1	1
		H26	8	1次	3	3	1	1
				2次	0	0	0	0
				3次	1	1	1	1
		H27	8	1次	8	8	6	6
				2次	4	4	3	3

(出典：岐阜大学データ集)

岐阜大学医学系研究科 分析項目

表 1 - 1 - 3 教育組織、教員組織及び入学者選抜方法の改善

専攻	状況
再生医科学専攻	<p>博士前期課程及び博士後期課程は、再生分子統御学講座、再生工学講座及び再生応用学講座の3講座7分野から構成されている。</p> <p>平成27年度入試から学力試験科目（外国語（英語））において、TOEIC又はTOEFLのスコアを試験に換算できる試験方法を導入した。また、博士後期課程は、平成27年度から秋季入学を開始した。</p>
医科学専攻	<p>分子・構造学講座、病態制御学講座、神経統御学講座、腫瘍制御学講座及び医療管理学講座の5講座43分野から構成されている。</p> <p>がんプロフェッショナル養成プランに基づき、臨床腫瘍学分野において博士学位の取得と専門医取得を目指す人材養成に取り組み、平成24年度からは「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」として第2期目がスタートした。</p> <p>平成27年度入試から再生医科学専攻と同様に（外国語（英語））試験におけるTOEIC又はTOEFLのスコア及び秋季入学を導入した。</p>
看護学専攻	<p>看護学教育領域と実践看護学領域の2領域4分野で構成され、教育や実践における課題を自発的・具体的に研究し、質の高い活動に繋がる力を養う教育環境を提供している。</p> <p>英語読解の基本的能力のある入学生を受け入れるため、英語科目を入試に取り入れた。平成22年度以降の入試では、英語、専門科目、面接に欠格とする最低の点数を設定したが、受験生の7割が合格できている現状から、看護学専攻で学習と研究を進めるに値する英語能力を持った院生獲得に繋がった。</p>

（出典：現状を踏まえ作成）

各専攻科における研究指導教員及び研究指導補助教員数は、表1-1-4のとおりであり、教員1人あたりの学生数は、1.0人～2.5人の学生を担当しており、個別研究指導を基本とする大学院教育を実施する本研究科として、適正な学生教員比となっている。

表 1 - 1 - 4 教員配置数

専攻	収容定員	学生数	教員数			教員一人当たりの学生数	
			研究指導教員数 ()内教授数	研究指導補助教員数	計		
医科学専攻	188	175	43	(36)	27	70	2.5
再生医科学専攻（前期）	22	25	10	(7)	5	15	1.7
再生医科学専攻（後期）	18	15	9	(6)	5	14	1.1
看護学専攻	16	18	16	(10)	2	18	1.0

平成27年5月1日時点(単位:人)

（出典：大学情報データベース）

（2）教育プログラムの質保証・質向上に向けた取組

1. 医科学専攻及び再生医科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

3課程にかかる教育課程、履修及び試験等の教学について審議を行う医学研究科学務委員会を設置している。教育方法の改善に向け、同委員会が医学系研究科のFDの企画・実施及び評価に取組んだ（表1-1-5）。また、平成27年度には、専門的能力（修了時に身につけるべき能力）の内容と水準を明確にし、学習の観点からシラバスの内容を充実し、

Web 上に掲載した (<http://www.med.gifu-u.ac.jp/grad/grad-med/index.html>) .

表 1 - 1 - 5 医学系研究科 FD 一覧

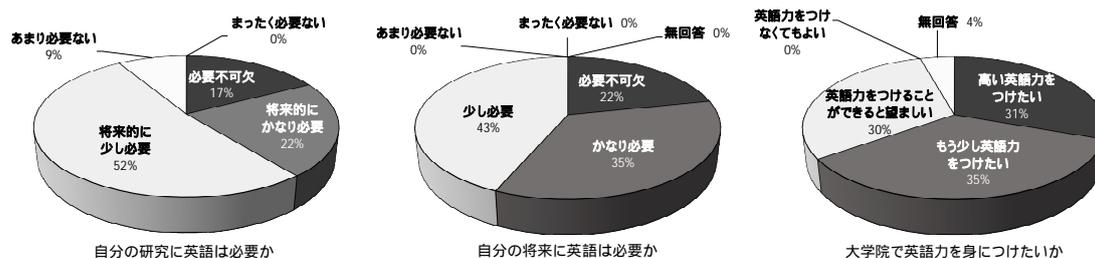
年度	演題	講演者	所属
H22	アカデミックライティングの基本を確認！ - 医学英語論文の書き方 40 のポイント -	押味 貴之	・ 日本大学医学部 医学教育企画・推進室 助教 (医学英語担当) ・ 日本英語医療通訳協会 (J.E.) 理事 等
H23	人のやりがい作り：コーチング コミュニケーションによるチーム医療の構築	畑埜 義雄	前和歌山県立医科大学病院長 臨床コーチング研究会長
	コーチング・コミュニケーションとは	田丸 司	偕行会リハビリテーション病院副院長
	「こんなに発達していたなんて！ 情報端末をあなたの仕事に役立てる」 ・ 自然体でプレゼンテーション ・ 私の恋人 iPad II ・ 毎日のための、究極のクラウドサービス ・ 記憶に残るキーワード	長瀬 清 高橋 優三 次田 雅典 紀ノ定 保臣	手術部 寄生虫学 整形外科学 医療情報学
H24	Mentorship in Medicine: What is it and why does it matter? (医学におけるメンターシップ mentorship : その意味と重要性)	Mitchell D. Feldman, MD, Mphil	カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 医学部教授、副学長 (メンタリング担当)
	大学院教育改革推進プログラム 卒後臨床研修と博士号取得を両立させる - 岡山大学大学院 ART プログラム	松井 秀樹	岡山大学大学院医歯科学専攻長/元医学部長
H25	ADAMS コース導入に向けて	江崎 孝行	病原体制御学分野 医学研究科学務委員長
	ポートフォリオによる 学習評価	藤崎 和彦	岐阜大学医学部医学教育開発研究センター
H26	臨床研究の推進に求められる レギュラトリー・サイエンスの理解	田村 敦史	(独) 医薬品医療機器総合機構 関西支部支部長
H27	日本医療研究開発機構の現状と展望	菱山 豊	日本医療研究開発機構 執行役

(出典：医学系研究科 FD 開催一覧表)

2 . 看護学専攻

教学について審議を行う看護学専攻学務委員会を設置し、在学中に身につける専門的能力の明確化やシラバス記載内容のチェックなど、単位の実質化に取り組んだ。教育力・教育方法の改善は、看護学科及び看護学専攻が一体となり看護学科 FD 委員会で取り組んだ。

具体的な改善事例として、英語教育に関するアンケート調査結果 (図 1 - 1 - 1) を踏まえ、平成 27 年度から医療英語の内容を改善した結果、休学者を除く 1 年生全員が履修し受講者数が向上した。



(出典：英語教育に関するアンケート調査の結果)

図 1 - 1 - 1 院生の英語に関する意識

(水準)期待される水準にある

(判断理由)適切に教員配置を行い、基本的組織編成及び教育内容を整備している。

医科学専攻と再生医科学専攻では平成27年度入試から外国語（英語）の学力試験においてTOEIC又はTOEFLを導入し、また医科学専攻（博士課程）や再生医科学専攻（博士後期課程）では秋季入学を導入する等、入学実施体制を改善・整備した。看護学専攻では、入試内容の変更や欠格基準の明確化に取り組んだ。

各専攻とも学務委員会を組織し、改善に向けた検討を行い、専門的能力の明確化や教授内容の変更など、教育活動の改善につながった。

以上のことから、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1)体系的な教育課程の編成状況

1. 医科学専攻（博士課程） 再生医科学専攻（博士後期課程）

教育課程は、表1-2-1のとおり、共通科目及び専門科目から編成されており、特に専門科目は体系的な履修ができる編成としている。平成19年度からは志望した専攻分野の必要単位数を多くし実質的な編成とするとともに、博士論文作成に必要な研究活動を特別研究として単位化している。現在の教育課程に基づく授業及び研究指導は授与する学位やアドミッション・ポリシーに示す教育研究者あるいは高度専門臨床医の養成に応えるものとなっている。

2. 再生医科学専攻（博士前期課程）

教育課程の編成は、表1-2-1に示すとおり、共通科目及び専門科目からなり、体系的な履修ができる編成となっている。修士論文作成に必要な研究活動が特別研究として単位化され、学位やアドミッション・ポリシーに示す高度専門職業人の養成に応えるものとなっている。また、個別の授業は高度専門職業人に必要とされる科目で構成されており、授業内容は、教育課程の編成趣旨にあったものとなっている。

3. 看護学専攻

教育課程の編成は、表1-2-1に示すとおり、共通科目、専門科目及び各専門分野の特別研究からなり、体系的な履修ができる編成としている。院生アンケートでは、カリキュラムに対して「満足している」「やや満足」と回答した学生が約90%で、高い満足度が得られていた（観点2-1に係る状況を参照）

表1-2-1 大学院研究科の教育目的と教育課程の編成

	教育目的（養成しようとする人物像）	教育課程の構成	授与する学位
医科学専攻（博士課程）	医学研究と医療における国際的通用性の高い人材養成システムの確立、研究成果の地域並びに国際社会への発信と展開及び生命医科学研究の臨床医学への応用等を達成し、高度先進医学・医療の発展という社会のニーズを実現するための教育研究体制の確立を目標としている。それにより高度で先端的・学際的・創造的研究を推進し、将来の医学を担うリーダーとなるべき優れた生命医科学研究者・臨床医学研究者・生命医科学教育者及び高度な医学的素養を身に付けた臨床医並びに急速に発展している現代医療に対応できる医療行政専門家を養成する。	共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	博士（医学）

再生医科学専攻(博士前期課程)	先端的再生医科学の研究・教育を行います。それにより分子生物学、生命・情報工学、臨床医学及び社会医学の各分野で再生医科学を中心的に担うことのできる知的創造性・専門性と共に倫理性・人間性・社会性・国際性の豊かな研究者並びに高度専門的職業人の両者を養成します。	共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	修士 (再生医科学)
再生医科学専攻(博士後期課程)	先端的再生医科学の研究・教育を行います。それにより分子生物学、生命・情報工学、臨床医学及び社会医学の各分野で再生医科学を中心的に担うことのできる知的創造性・専門性・倫理性・社会性と共に、再生医科学・医療の発展に貢献する判断力、実行力及び独創性に富む人間性豊かな研究者並びに高度専門的職業人の両者を養成します。	共通科目及び専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	博士 (再生医科学)
看護学専攻(修士課程)	日々進歩する医療の知識・技術、人々の健康への多様な要求に対し、専門性が高く質の良いサービスを提供するためにも、全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた人材が求められています。このような要望に応えるため、看護学専攻では高い倫理観や科学的思考力を備えた人材を育てると共に、学際的視野を広げ、看護学と看護実践面での課題を自発的・具体的に研究し、質の高い看護の実践能力を養うことを目標とします。	共通科目、専門科目から成り、体系的な履修ができる編成としている。	修士 (看護学)

(出典：医学系研究科ホームページ、便覧等)

(2) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

各専攻の状況は、表1-2-2のとおりである。

表1-2-2 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

専攻	状況
医科学専攻(博士課程) 再生医科学専攻(博士後期課程)	平成26年度から、博士課程の学生に対する英語教育として、基礎から臨床まで幅広く最新の医学研究に触れることを目的に大学院講義 Advanced Doctor Course Alliance of Medical Science (以下 ADAMS) を開講している。同講義は、基礎系・臨床系の分野の教員が英語で研究内容を紹介するオムニバス形式の講義であり、英語で研究発表や討論を行う手法を習得する一助となるものである。
再生医科学専攻(博士前期課程)	平成26年度から、大学院教育の国際化を目指した英語による講義、英語による学会発表、議論に習熟させることを目的に、大学院講義「Advanced English Seminar」を開講している。

(出典：現状を踏まえ作成)

(3) 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

各専攻の状況は、表1-2-3のとおりである。

表1-2-3 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

専攻	状況
医科学専攻(博士課程) 再生医科学専攻(博士後期課程)	昼夜開講制による授業を実施している。特に志望分野の演習科目等は夜間の開講を主とし、共通科目、学際科目等は夏季集中及び土曜日集中により開講し、社会人学生に対応できるよう配慮した。 社会からの要請として、国際通用性のある教育課程の編成が求められているため、平成26年度から英語による大学院講義「ADAMS」を開講した。
再生医科学専攻(博士前期課程)	社会からの要請として、国際通用性のある教育課程の編成が求められているため、平成26年度から英語による大学院講義「Advanced English Seminar」を開講した。
看護学専攻	昼夜開講制並びに夏季集中及び土曜日集中を開講し、社会人学生のニーズに対応している。 さらに、社会からの要請に応えられるよう、研究計画発表会での発表を積極的に指導して修士論文作成能力を向上させている。院生アンケートでは、開講時期・時間について「満足している」「やや満足」が90%を超え、高い満足が得られた(観点2-1に係る状況を参照)。

(出典：現状を踏まえ作成)

(4) 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

1. 医科学専攻(博士課程)

表1-2-4に示すとおり、授業形態の組み合わせ及びバランスは保たれている。平成26年度からは大学院講義 ADAMS を開講した。

また、平成26年度から本研究科1年生に CITI Japan プログラムの e-learning を活用した研究者行動規範教育の受講により、研究者倫理教育の充実を図った(再生医科学専攻も同様)。

2. 再生医科学専攻(博士前期課程、博士後期課程)

表1-2-4に示すとおり、授業形態の組み合わせ及びバランスは保たれている。また、平成26年度からは大学院講義「Advanced English Seminar」を開講した。

3. 看護学専攻

全ての科目は表1-2-5～1-2-7のとおり少人数教育を行い、特別演習、特別研究は対話・討論形式により実施している。また、研究計画発表会を年2回実施して他の専門分野から広く意見をもらえることを可能としている。

表1-2-4 大学院における授業形態別開設授業数(平成27年度)

		共通	学際	専門	特別研究
博士課程	医科学専攻	35	1	352	172
博士前期課程	再生医科学専攻	4	2	35	14
博士後期課程	再生医科学専攻	1	2	7	14

(出典：医学系研究科シラバスより)

表1-2-5 大学院における授業形態別開設授業数(平成27年度)

		講義	実験	演習	実習	その他
修士課程	看護学専攻	30	0	9	0	18

(出典：看護学専攻シラバスより)

表1-2-6 少人数授業の科目数、クラス数、単位数(平成27年度)

課程	科目数	クラス数	単位数	主な授業科目
修士課程	57	71	142	看護学研究方法論、医療英語

単位数は科目数に係る合計単位数

(出典：看護学専攻シラバスより)

表1-2-7 対話・討論型授業の科目数、クラス数、単位数(平成27年度)

課程	科目数	クラス数	単位数	主な授業科目
修士課程	15	15	30	母性看護学特別演習

単位数は科目数に係る合計単位数

(出典：看護学専攻シラバスより)

(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

1. 医科学専攻(博士課程) 再生医科学専攻(博士前期課程、博士後期課程)

教員の個別対応により、学生の論文指導を行っている。研究指導教員は、学生に共同の研究室やスペースを与えると共に、一人1台のパソコンを用意し、学習環境を整備している。また、時間外でも研究できるよう IC カードにより入退室の安全を確保している。

2. 看護学専攻

教員の個別対応により、学生の論文指導を行っている。講義室・セミナー室の他に院生室を2部屋用意し、統計解析ソフトを組み込んだコンピュータを各セミナー室・院生室に1台ずつ設置し、自主的に学習できる環境の確保と IC カードによる安全な入退室に配慮している。また、学位論文作成の流れと論文の書き方を示した小冊子を作成し、主体的学習をサポートしている。院生アンケートで、学習環境に「満足している」「やや満足」の回答

が、講義室（98%）、院生室（67%）と概ね満足を得られた。

(水準)期待される水準にある

(判断理由)

1．医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

共通科目及び専門科目により教育課程を編成し、体系的な履修ができる編成としている。これら授業科目については、夜間開講や休日開講を行い、社会人学生へ配慮している。また、平成26年度から本研究科1年生にCITI Japanプログラムのe-learningを活用した研究者行動規範教育を受講させ、研究者倫理教育の充実も図った。

平成26年度には大学院講義「Advanced English Seminar」や「ADAMS」を開講し、教育内容の改善に向けて取り組んだ。

学生の主体的な学習活動を促進するため、研究スペースの提供やICカードによる時間外施設利用など、学習環境を整備した。

2．看護学専攻（修士課程）

共通科目から専門科目及び各専門分野の特別研究へと体系的に履修できる教育課程としている。また、夜間開講や休日開講で、社会人学生へ配慮している。授業科目は少人数、対話・討論形式で実施するとともに、広い視野で研究に対する意見が得られる研究計画発表会を年2回実施している。

学生の主体的な学習活動を促進するため、院生室の整備や補助教材の作成に取り組み、院生アンケートでは、教授内容や科目開講時期、学習環境について概ね満足が得られた。

以上のことから、すべての専攻において、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

分析項目 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

表 2 - 1 - 1 に各専攻の学位授与状況を示す。

表 2 - 1 - 1 学位授与の状況

専攻	学位	H22	H23	H24	H25	H26	H27
医科学専攻(博士課程)	博士(医学)	22	23	32	26	36	31
再生医科学専攻(博士前期課程)	修士(再生医科学)	11	14	10	9	8	14
再生医科学専攻(博士後期課程)	博士(再生医科学)	5	7	2	2	0	5
看護学専攻(修士課程)	修士(看護学)	8	6	10	7	5	5

博士は課程博士のみ計上 (前年度単位取得退学者含む)

(出典: 大学情報データベース)

1. 医科学専攻(博士課程)、再生医科学専攻(博士後期課程)

学位論文は、査読雑誌に投稿し掲載又は掲載承認書が発行されたものであることを条件としている。特に、インパクトファクター(IF)が5以上の雑誌に掲載された場合や当該分野において高い評価を受けている雑誌に掲載された場合には、早期修了を認めている(表 2 - 1 - 2)。早期修了も含め、表 2 - 1 - 1 のとおり概ね毎年度学位授与が行われている。

平成 26 年度から開講している大学院講義「ADAMS」について授業内容及び満足度に関するアンケート調査を行い、「とても良い」又は「良い」という評価結果になった(表 3 - 2 - 1)。ここから、専門以外の他分野の先端研究に触れる機会が少ない本学の学生の意欲の向上に貢献していると判断できる。

また、平成 26 年度からは、CITI Japan プログラムの e-learning を活用し、研究者行動規範を身に付けさせている。

表 2 - 1 - 2 早期修了者の状況

年度	人数	論文掲載雑誌名	特に優れた研究業績
H22	2名	Journal of Immunology	IF 5.135
		J Biol Chem	IF 5.328
H24	1名	Endoscopy	IF 5.210
H25	1名	Endoscopy	IF 5.196
H26	2名	Urology	当該分野において高い評価を受けている雑誌に掲載
		Free Radical Biology and Medicine	IF 5.736
H27	1名	JOURNAL OF ANTIMICROBIAL CHEMOTHERAPY	IF 5.313

(出典: 早期修了者状況一覧)

2. 再生医科学専攻(博士前期課程)

修士論文は公開発表会を経て審査しており、公開発表時の質疑にも充分に応答していることを確認してから、学位を授与している(表 2 - 1 - 1)。また、学生が文科省研究費補助金による大型予算(新学術領域研究)などのプロジェクトにおける教育・研究活動において、国内外で研究発表を行った。平成 26 年度からは、CITI Japan プログラムの e-learning を活用し、研究者行動規範を身に付けさせている。

3. 看護学専攻(修士課程)

平成 27 年度に、学位論文審査における主査副査の決定方法、論文審査と口頭試問の分離、論文審査結果の得点化(60 点以上で合格)、口頭試問方法の見直しの 4 点の改善を行った。平成 27 年 9 月期の審査から適応し、論文審査で全員が 60 点以上を獲得でき、5 名

の修了生を輩出した。また、過年度においても、表 2 - 1 - 1 のとおり、学位授与をしている。

院生アンケートでは、表 2 - 1 - 3 のとおり、カリキュラムや教授内容について満足が得られ、本専攻での学びを業務や職場等に、「反映している」「やや反映している」と回答した社会人学生は 90% であった（表 2 - 1 - 4）。

大学院生（修了生含む）の学会発表、論文公表は、平成 22 年度以降の修了生 36 名のうち 22 名（61%）が行っていた（表 2 - 1 - 5）。

表 2 - 1 - 3 大学院生アンケートの結果（平成 22 年度以降集計値）

	満足している	やや満足している	やや満足していない	満足していない	無回答
カリキュラム	18(40%)	23(51%)	3(7%)	1(2%)	0(0%)
開講時期・時間	17(39%)	24(54%)	3(7%)	0(0%)	0(0%)
教授内容	14(32%)	23(52%)	6(14%)	0(0%)	1(2%)
学習環境（講義室）	19(43%)	24(55%)	1(2%)	0(0%)	0(0%)
学習環境（院生室）	9(20%)	21(47%)	11(24%)	3(7%)	1(2%)

（出典：大学院生アンケートの集計結果）

表 2 - 1 - 4 大学院で学んでいることが業務や職場等に反映されているか

	反映している	やや反映している	やや反映していない	反映していない	無回答
回答割合（%）	36	53	7	2	2

平成 22～26 年度の集計値であり回答数は 45

（出典：大学院生アンケートの集計結果）

表 2 - 1 - 5 看護学専攻でおこなった研究成果の公表件数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
学会発表件数（件）	3	10	4	2	4	2	25
論文公表件数（件）	2	3	7	7	3	6	28

大学院生又は修了生が第一研究者または第一著者であるものを計上

在学中のみならず、当該大学院生が修了した後に公表されたものも含む

（出典：院生の研究成果公表調査結果）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

1．医科学専攻（博士課程）、再生医科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

ほぼ毎年度学位を授与するとともに、優秀論文として条件を満たした学生が毎年度早期に学位を取得している。学位論文は全て英文論文として提出されており、Advanced English seminar や ADAMS など英語授業の教育成果が表れていると考える。

2．看護学専攻（修士課程）

平成 27 年度から学位論文審査の方式等を変更し、単位の実質化に向けた学位授与審査の体制を整備した。また、過年度より、院生・修了生による学会発表や論文公表も活発に行われている。

院生アンケートでは、カリキュラムや教授方法などに対し満足が得られるとともに、社会人学生の 90% 程度が大学院での学びを業務や職場等に反映していた。

以上のことから、すべての専攻において、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に据えていると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

全般的な進路・就職の状況について、表2-2-1、2-2-2に示す。

表2-2-1 進路・就職の状況(医学系研究科)

専攻等	区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
医科学専攻(博士課程)	卒業・修了者数	23	22	35	25	36	29
	就職決定者	21	18	31	23	34	29
	民間会社	1	0	1	1	0	0
	公務員・教員・医療・保健 他	20	18	30	22	29	29
	進学決定者	0	0	0	0	0	0
	その他	2	4	4	2	2	0
再生医科学専攻(博士前期課程)	卒業・修了者数	11	14	10	9	8	14
	就職決定者	11	13	9	8	7	13
	民間会社	10	11	7	5	1	13
	公務員・教員・医療・保健 他	1	2	2	3	3	0
	進学決定者	0	1	1	0	0	0
	その他	0	0	0	1	1	1
再生医科学専攻(博士後期課程)	卒業・修了者数	7	8	3	2	2	5
	就職決定者	6	6	2	0	1	5
	民間会社	2	1	0	0	0	0
	公務員・教員・医療・保健 他	4	5	2	0	1	1
	進学決定者	0	0	0	0	0	0
	その他	1	2	1	2	1	0
看護学専攻	卒業・修了者数	8	6	10	7	5	5
	就職決定者	8	4	9	6	4	5
	民間会社	0	0	0	0	0	0
	公務員・教員・医療・保健 他	8	4	9	6	4	5
	進学決定者	0	0	1	1	1	0
	その他	0	2	0	0	0	1

単位取得退学者含む

(出典：岐阜大学データ集)

岐阜大学医学系研究科 分析項目

表 2 - 2 - 2 職業別就職者数 (医学系研究科)

専攻等	区分	H22	H23	H24	H25	H26
医科学専攻(博士課程)	研究者	1	0	4	1	1
	教員(大学・短期大学)	2	3	4	3	3
	医師・歯科医師	16	12	21	19	29
	薬剤師	0	1	0	0	1
	医療技術者	1	2	2	0	0
	その他	1	0	0	0	0
再生医科学専攻(博士前期課程)	研究者	0	0	2	0	0
	教員(大学)	0	0	0	1	0
	保健師・助産師・看護師	0	0	0	0	1
	医療技術者	1	1	0	1	1
	その他	10	12	7	6	5
再生医科学専攻(博士後期課程)	研究者	1	0	1	0	0
	教員(高等専門学校・大学・短期大学)	1	2	0	0	0
	医師・歯科医師	3	1	0	0	0
	薬剤師	0	1	0	0	0
	医療技術者	0	1	1	0	1
	その他	1	1	0	0	0
看護学専攻	教員(高等専門学校・大学・短期大学等)	4	2	5	2	4
	保健師・助産師・看護師	4	2	5	3	1
	その他	0	0	0	1	0

毎年度5月1日時点の数値

(出典：学校基本調査)

1. 医科学専攻(博士課程)、再生医科学専攻(博士後期課程、博士前期課程)

表2-2-1、2-2-2のとおり、医科学専攻(博士課程)では、平成22年度～平成26年度の5年間で141人の修了生を輩出している。入学者の多くが有職者で、修了後、教育機関やより専門性の高い医療機関に就職している。

再生医科学専攻(博士前期課程)では、5年間で52人の修了生を輩出している。修了生のうち、2名が博士後期課程へ進学し、他の修了生は民間企業、官公庁の研究者、臨床検査技師、公務員、エンジニアなどとして就職している。

同専攻博士後期課程では、5年間で22人の修了生を輩出している。入学者の多くが有職者(医師、薬剤師、放射線技師、研究者等)であり、博士前期課程よりさらに高度な内容を教授し、自立した研究者を養成、修了させている。就職先は、医療機関、高等教育機関(国立高専機構)、情報系あるいは医療系等の企業である。大学の教授職に就いている者もいる。

2. 看護学専攻(修士課程)

平成22年度以降の修了生36名中22名(61%)が平成27年10月現在、看護系・医療系大学や短期大学、看護専門学校の教員をしている。その中で、岐阜大学医学部看護学科の教員(任期付助教を含む)となった者は3名で、非常勤講師として貢献している者は3名である。その他、臨床現場や訪問看護ステーションの経営者で活躍している。

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

1. 医科学専攻(博士課程)、再生医科学専攻(博士後期課程)

表2-2-2に示すように教育機関やより専門性の高い医療機関等への就職ができて

いる状況から、教育目的や地域及び社会の期待に応えられる結果であると判断する。

2. 再生医科学専攻（博士前期課程） 看護学専攻（修士課程）

表2 - 2 - 2 に示すように専門性の高い企業・研究機関及び医療機関へ就職していることから教育目的や社会及び地域の期待に応えられる結果であると判断する。

「質の向上度」の分析

(1) 分析項目 教育活動の状況

1. ADAMS 及び Advanced English seminar の開始等による国際的な教育活動の展開

再生医科学専攻（博士前期課程）では平成 26 年度から大学院講義「Advanced English seminar」を開講して学会発表を効率よく英語で発表する教育を開始した（表 3 - 1 - 1）。また、医科学専攻（博士課程）再生医科学専攻（博士後期課程）では、専門分野以外の研究内容を英語で聴講する機会が少ない学生のために、平成 26 年度から大学院講義「ADAMS」を開講し、多様な分野の研究を英語で聴講する機会を提供した（表 3 - 1 - 2）。さらに、研究科全体で国際通用性のある人材養成を推進するため、入学者選抜における学力試験科目において TOEIC 又は TOEFL を導入し、将来を担う人材を幅広く確保に努める改善を行っている。

これらの取組は第 2 期から新たに開始したものであり、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

表 3 - 1 - 1 Advanced English seminar の受講者数

	H26	H27
受講者数（人）	14	9

（出典：受講者名簿）

表 3 - 1 - 2 ADAMS の受講者数

	H26	H27
開講回数	16	19
受講者数（延べ人数）	86	50

（出典：出席者名簿）

(2) 分析項目 教育成果の状況

1. 研究倫理教育の推進

研究の倫理規範を習得させるため、本学の研究倫理教育義務化に先んじ、平成 26 年度から大学院 1 年生に対し CITI Japan プログラムの e-learning の受講登録を行い、倫理行動規範の修得を推進した。同プログラムでは、研究倫理に関する事項をオンラインで学習するとともに、理解度を測るクイズも付加されており、一定程度の得点を得なければ修了できないシステムとなっている。この教育を通じて、論文作成及び学会発表等で求められる倫理規範にも適切に対応する能力を習得し、教育成果が向上したと考える。（受講者完了者数は平成 26 年度 13 名、平成 27 年度 36 名）

この取組は、第 2 期から新たに開始したものであり、第 1 期に比べ、教育成果の質が向上したと判断できる。

2. ADAMS の開始による学生の学習意欲向上

平成 25 年度から開始した大学院講義「ADAMS」では、各分野の実際の研究内容を英語により学生に紹介し、学生の研究意欲向上を図った。その結果、学生の授業に関するアンケートでは満足度が高く、このことはデータの蓄積過程、研究データ取得の方向性、あるいは探求心を刺激するなど、学生に新しい研究視点を創生させることに成功したと判断している（表 3 - 2 - 1）。

この取組は、第 2 期から新たに開始したものであり、第 1 期に比べ、教育成果の質が向上したと判断できる。

表 3 - 2 - 1 ADAMS のアンケート結果

年度	アンケート回答数	とても良い	良い	あまり良くない	良くない	未記入
H26	33	15	18	0	0	0
H27	50	37	4	0	0	9

（出典：ADAMS 授業評価アンケートの集計結果）